

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
	「食生活指針」の目標に達している者の割合						
	野菜(豆類を含む)及び果実類	29(1989-91)	50		35(1996)	29	追加項目
	穀物類	40(1989-91)	50		52(1996)	120	
2.7	適切な体重になるように、日常的な身体活動と併せて健全な食生活を実践している12歳以上の肥満者の割合を増加させ		50				
	18歳以上の肥満男性	25(1985)	50	17(1993)	15(1998)	-40	
	18歳以上の肥満女性	30(1985)	50	19(1993)	18(1998)	-60	
a	18歳以上のヒスニック系肥満男性	15(1991)	24		12(1998)		追加項目
b	18歳以上のヒスニック系肥満女性	13(1991)	22		12(1998)		追加項目
	カルシウムに富んだ食物の摂取を増加させる(摂取者の割合)						
2.8	1日平均3サービングサイズ以上						
	11-24歳	20(1989-91)	50		15(1996)	-17	12-24歳より変更
	妊婦・授乳婦	22(1989-91)	50		13(1996)	-32	
	1日平均2サービングサイズ以上						追加項目
	2-10歳の子供	48(1989-91)	75		47(1996)	-4	
	25歳以上	21(1989-91)	50		21(1996)	0	
a	目標に達している11-24歳の女性の割合	13(1989-91)	50		8		
	食塩及びナトリウムの摂取量を減少させる(18歳以上)						
2.9	家庭で食塩を加えずに調理を行なう者の割合	43(1989-90)	65				
	食卓塩を用いないようにする者の割合	60(1989-91)	80		62(1996)	10	
	減塩食品を定期的に購入する者の割合	20(1988)	40		19(1995)	-5	
2.10	鉄分不足を減少させる						
	1-4歳の子供		3		6(1988-94)		
	1-2歳の子供	9(1976-80)	3		9(1988-94)	0	
	3-4歳の子供	4(1976-80)	3		4(1988-94)	0	
	生殖年齢の女性(20-44歳)	5(1976-80)	3		8(1988-94)	-150	
a	1-2歳の低所得層の子供	21(1976-80)	10		13(1988-94)		
b	3-4歳の低所得層の子供	10(1976-80)	5		6(1988-94)		
c	生殖年齢の低所得層の女性(20-44歳)	8(1976-80)	4		12(1988-94)		
	貧血の有病率						

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
	1-5歳のアラスカ原住民の子供						
d		22-28 (1983-85)	10		(1995: 1-4 歳低所得 27者)		
e		41 (1988)	20		44 (1988)		
2.11	15-44歳の低所得黒人の妊婦(妊娠第3期) 母乳栄養を行なう母親の割合を増加させる						
	生後早期	54 (1988)	75	56 (1993)	67 (1999)	62	
a	低所得層の母親	34 (1988)	75	38 (1993)	49 (1999)		ベースラインの見直しあり
b	黒人の母親	25 (1988)	75	31 (1993)	50 (1999)		
c	ヒスパニックの母親	51 (1988)	75	56 (1993)	69 (1999)		
d	アメリカンインディアン/アラスカ原住民の母親	47 (1988)	75	51 (1993)	62 (1999)		
	生後6ヶ月	20 (1988)	50	19 (1993)	31 (1999)	37	ベースラインの見直しあり
a	低所得層の母親	9 (1988)	50	10 (1993)	20 (1999)		
b	黒人の母親	7 (1988)	50	9 (1993)	20 (1999)		ベースラインの見直しあり
c	ヒスパニックの母親	14 (1988)	50	16 (1993)	29 (1999)		ベースラインの見直しあり
d	アメリカンインディアン/アラスカ原住民の母親	28 (1988)	50	28 (1993)	27 (1999)		
2.12	哺乳瓶による虫歯を予防するための授乳法を 行なう母親や養育者の割合を増加させる 高校教育未満の母親や養育者						
a	アメリカンインディアン/アラスカ原住民の母親や 養育者	74 (1985-89)	65				
b	黒人の母親や養育者	48 (1991)	65		57 (1998)		追加項目
c	ヒスパニックの母親や養育者	39 (1991)	65		46 (1998)		追加項目
d	栄養価の高い食品を選択する際に食品 表示を参考にする18歳以上の者の割合 を増加させる						
2.13	食品表示のカロリー、脂肪、コレステロール含有 量を見る者	74 (1988)	85	76 (1990)	75 (1995)	9	
	食品への有用かつ有益な栄養表示を達 成する				61 (1998)		
2.14	加工食品	60 (1988)	100		97 (1997)	93	
	生鮮食品	<1 (1991)	90		73 (1996)	81	ベースラインの見直しあり
	生鮮魚類	0 (1991)	90		71 (1996)	79	ベースラインの見直しあり
	生鮮肉類	67 (1995)	90		55 (1999)	-52	ベースラインの見直しあり
	アイクワト食品				40 (1999)		

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
2.15	脂肪や飽和脂肪を減らした加工食品の商品数を増やし、利用しやすくする	2500(1986)	5000	5618(1991)	5618(1991)	125	
2.16	レストランや施設給食サービスのうち、「食生活指針」に則り低脂肪・低カロリー食を提供する所の割合を増加させる						
	最低1つ以上の低脂肪・低カロリー食を提供する大手チェーンレストランの割合	70(1989)	90	75(1990)	75(1990)	25	
2.17	学校や小児養育給食サービスのうち、「食生活指針」の栄養原則に則ったメニューを有する所の割合を増加させる		90				
	学校給食(昼食)での平均脂肪摂取が低い学校の割合						
	総脂肪からのカロリー摂取率が30%以下	1(1992)			20(1999)	21	
	飽和脂肪からのカロリー摂取率が10%以下	<1(1992)			15(1999)	16	
	学校給食(USDAプログラムによる朝食)での平均脂肪摂取が低い学校の割合						
	総脂肪からのカロリー摂取率が30%以下	44(1992)			78(1999)	74	
	飽和脂肪からのカロリー摂取率が10%以下	4(1992)			58(1999)	63	
	脂肪を減らそうとする試みを行なう学校の割合						
	焼いた肉から油を除去する				94(1994)		
	凍っている肉から脂肪の部分を除去する				79(1994)		
	バターやマーガリンをつけない				31(1994)		
2.18	自分で調理することが困難、あるいは宅配の食事を必要とする65歳以上の者で、家庭給食サービスを受ける者の割合を増加	48(1991)	80		55(1998)	22	ベースラインの見直しあり
2.19	就学前から12年生の生徒を対象に、健康教育の一部として栄養教育を行なう学校の割合を増加させる		75				
	栄養教育を要求する州の割合	60(1990)			69(1994)	60	
	最低1回以上の栄養教育の授業						
	中学校				83(1994)		
	高校				85(1994)		
2.20	栄養教育や体重管理プログラムを提供する50人以上の規模の職場の割合を増加させる						

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
	栄養教育	17 (1985)	50	31 (1992)	31 (1992)	42	
	体重管理	15 (1985)	50	24 (1992)	24 (1992)	26	
	栄養教育及び/または体重管理		50	37 (1992)	37 (1992)		
	栄養についての集団教室・ワークショップ・講義		50	17 (1992)	23 (1998-99)		
	体重管理についての集団教室・ワークショップ・講義		50	15 (1992)	15 (1998-99)		
	栄養についての評価、助言及び専門家への紹介を行なうライマリア従事者の割合を増加させる		75				
2.21	全患者の81-100%にサービスを提供したライマリア従事者の割合	40-50 (1988)					
	食事/栄養について質問						
	小児科医		75	53 (1992)			
	業務看護師		75	46 (1992)	43 (1997-98)		
	産婦人科医		75	15 (1992)			
	内科医		75	36 (1992)			
	家庭医		75	19 (1992)			
	食事/栄養の計画を作成						
	小児科医		75	31 (1992)			
	業務看護師		75	31 (1992)	31 (1997-98)		
	産婦人科医		75	19 (1992)			
	内科医		75	33 (1992)			
	家庭医		75	24 (1992)			
2.22	脳卒中の死亡率を減少させる(年齢補正後10万対)	30.4 (1987)	20		25.1 (1998)	51	他分野からの追加項目
a	黒人	52.5 (1987)	27		41.4 (1998)		
2.23	結腸直腸癌死亡率を減少させる(年齢補正後10万対)	14.7 (1987)	13.2		12.0 (1998)	180	他分野からの追加項目
a	黒人	18.1 (1990)	16.5		16.8 (1998)		
2.24	糖尿病の発生率及び有病率を減少させる(1000人対)						他分野からの追加項目
	発生率	2.9 (1986-88)	2.5		3.1 (1996)	-50	
	有病率	28 (1986-88)	25		39 (1998)	-367	
	糖尿病有病率(1000人対)						
a	15歳以上のアメリカンインディアン/アラスカ原住	69 (1987)	62		90 (1996)		

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
b	20-74歳のアメリカ人住民	55 (1982-84)	49				
c	20-74歳のメキシコ系アメリカ人	54 (1982-84)	49		66 (1994)		
d	20-74歳のキューバ系アメリカ人	36 (1982-84)	32				
e	黒人(全年齢層)	36 (1986-88)	32		51 (1998)		
2.25	高コレステロール血症(240mg/dL以上)の割合を減少させる						他分野からの追加項目
	20-74歳	27 (1976-80)	20		19 (1988-94)	114	
	20-74歳男性	25 (1976-80)	20		18 (1988-94)	140	
	20-74歳女性	29 (1976-80)	20		20 (1988-94)	100	
2.26	高血圧者のうち、血圧がコントロールされている者の割合を増加させる						他分野からの追加項目
	18-74歳の高血圧者	11 (1976-80)	50		23 (1988-94)	31	
a	18-74歳の男性高血圧者	6 (1976-80)	40		17 (1988-94)		
b	20-74歳のメキシコ系アメリカ人高血圧者	14 (1988-94)	50				ベースラインの見直しあり
c	70歳以上の女性高血圧者	19 (1988-94)	50				ベースラインの見直しあり
2.27	成人の平均血中コレステロール値を減少させる(mg/dL)						他分野からの追加項目
	20-74歳	213 (1976-80)	200		203 (1988-94)	77	
	20-74歳男性	211 (1976-80)	200		202 (1988-94)	82	
	20-74歳女性	215 (1976-80)	200		204 (1988-94)	73	

### 3. タバコ

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
3.1	冠動脈疾患死亡率を減少させる(年齢補正後10万対)	135 (1987)	100	114 (1992)	97 (1998)	109	
a	黒人	168 (1987)	115	151 (1992)	133 (1998)		
3.2	肺癌死亡率の増加傾向を鈍化させる(年齢補正後10万対)	38.5 (1987)	42	39.3 (1992)	36.9 (1998)	Met	
a	女性	25.6 (1990)	27		27.0 (1998)		追加項目
b	黒人男性	86.1 (1990)	91		68.5 (1998)		追加項目
3.3	慢性閉塞性肺疾患死亡率の増加傾向を鈍化させる(年齢補正後10万対)	18.9 (1987)	25	19.9 (1992)	21.3 (1998)	Met	
3.4	18歳以上の喫煙率(カレット)を減少させる	29 (1987)	15	25 (1993)	24	36	20歳以上から変更
	男性	31 (1987)			26	31	
	女性	27 (1987)			22 (1998:比較)	42	
a	20歳以上で高卒以下の者	34 (1987)	20		31 (不能のデータ)		
b	18歳以上の工場労働者	41 (1987)	20		36 (女性)		
c	職業軍人	42 (1988)	20		30 (1998)		
d	18歳以上の黒人	33 (1987)	18		25 (1998:比較)		
e	18歳以上のヒスパニック	24 (1987)	15		19 (不能のデータ)		
f	アメリケンインディアン/アラスカ原住民	42-70 (1979-87)	20		37 (女性)		
g	東南アジア系	55 (1984-88)	20		36-41 (1991)		
					(1998:比較)		
					不能のデータ		
h	生殖年齢の女性(18-44歳)	29 (1987)	12		25 (女性)		
i	妊娠中の女性	25 (1985)	10		13 (1998)		
j	経口避妊薬を服用している女性	36 (1983)	10		24 (1995)		
3.5	子供と青少年の喫煙開始年齢を引き上げる(20-24歳の喫煙率)	30 (1987)	15	27 (1993)	29 (1998)	7	
a	社会経済状況が低い青年	40 (1987)	18	38 (1993)	42 (1998)		
3.6	過去1年間に1日以上禁煙した18歳以上の喫煙者の割合を増加させる	34 (1986)	50		42 (1998)	50	
	(1985:20-24歳の白人女性)						
	39人女性)				14 (1998)	-119	
3.7	妊娠中の禁煙を増加させる(18-49歳)	28 (1985)	45		N.A.		
a	高卒以下の女性	39 (1986)	20	27 (1993)	20 (1998)	100	
3.8	家庭でタバコ煙に暴露されている子供の割合を減少させる(6歳以下)						
3.9	12-24歳の男性における無煙タバコの使用を減少させる	6.6 (1988)	4	3.9 (1993)	2.2 (1998)	169	
	12-17歳男性						
	18-24歳男性	8.9 (1987)	4	7.8 (1993)	6.9 (1998)	41	
a	18-24歳のアメリケンインディアン/アラスカ原住民	18-64 (1986-87)	10		N.A.		

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
3.10	禁煙環境を整備し、喫煙防止教育を実施する学校の割合を増加させる						
	禁煙を実施している学区	17(1988)	100		36.5(1994)	24	
	喫煙防止教育を実施している学区						
	高校	78(1988)	100		90.7(1994)	58	
	中学校	81(1988)	100		82.5(1994)	8	
	小学校	75(1988)	100		N.A		
3.11	職場における喫煙対策を有する事業所の割合を増加させる						
	喫煙の禁止か厳しい制限を行なう対策						
	50人以上の事業所	27(1985)	100	59(1992)	79(1999)	71	目標値75%から変更
	何らかの喫煙対策						
	中・大規模の会社	54(1987)	100		N.A		目標値75%から変更
	50人以上の事業所		100		N.A		目標値75%から変更
3.12	きれいな屋内空気に関する総合的な法律を有する州を増加させる(ワシントンDCを含む)						文章・表現の変更あり、ワシントンDC追加
	民間の職場	1(1995)	51		1(1998)	0	ベースラインの見直しあり
	公的な職場	9(1995)	51		13(1998)	10	ベースラインの見直しあり
	レストラン	2(1995)	51		3(1998)	2	
	公共交通機関	17(1995)	51		16(1998)	-3	ベースラインの見直しあり
	病院	8(1995)	51		8(1997)	0	ベースラインの見直しあり
	デイケアセンター	21(1995)	51		22(1998)	3	
	食料品店	4(1995)	51		4(1998)	0	ベースラインの見直しあり
3.13	若者に対するタバコ販売を規制する法律を有する州を増加させる(ワシントンDCを含む)						文章・表現の追加あり、ワシントンDC追加
	20%以下になるよう法律で規制している州	45(1990)	51	51(1994)	51(1999)	100	
	タバコの使用を減らしていく計画を有する州を増加させる(ワシントンDCを含む)						
3.14	若者に対するタバコ製品の広告・販売促進を厳しく制限する	(1989:ワシントンDCを含む) 12 最低限の制限(1990)	51		51(1999)	100	ワシントンDC追加
3.15	喫煙患者に対して禁煙指導を行うブライマリア従事者の割合を増加させる		禁止または厳しい		N.A		
3.16	少なくとも全患者の75%以上にサービスを提供したブライマリア従事者の割合						
	喫煙の有無について質問						
	一般歯科医	26(1986)	75		32.8(1994)		
	喫煙について7ドバイス						
	一般歯科医	35(1986)	75		64.8(1994)		
	内科医	52(1986)	75				
	無煙タバコの使用の有無について質問						

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
	一般歯科医				14.4(1994)		
	無煙タバコの使用についてアドバイス						
	一般歯科医				75.0(1994)		
	全患者の81-100%にサービスを提供したプライマリケア従事者の割合						
	喫煙の有無について質問						
	小児科医		75	33(1992)	66(1997-98)		
	業務看護師		75	51(1992)			
	産婦人科医		75	49(1992)			
	内科医		75	75(1992)			
	家庭医		75	59(1992)			
	禁煙の計画について検討						
	小児科医		75	19(1992)			
	業務看護師		75	20(1992)			
	産婦人科医		75	28(1992)			
	内科医		75	50(1992)			
	家庭医		75	43(1992)			
3.17	口腔内及び咽頭の癌の死亡率を減少させる(10万対)						他分野からの追加項目
	45-74歳男性	13.6(1987)	10.5		10.4(1998)	103	
	45-74歳女性	4.8(1987)	4.1		3.4(1998)	200	
a	45-74歳の黒人男性	29.4(1990)	26.0		21.0(1998)		
b	45-74歳の黒人女性	6.9(1990)	6.9		4.6(1998)		
3.18	脳卒中の死亡率を減少させる(年齢補正後10万対)	30.4(1987)	20		25.1(1998)	51	他分野からの追加項目
a	黒人	52.5(1987)	27		41.4(1998)		
3.19	タバコ・アルコール・マリファナを最初に使用する年齢を遅くする(12-17歳)						他分野からの追加項目
	タバコ	11.6(1988)	12.6		12.4(1998)	80	
	アルコール	13.1(1988)	14.1		13.1(1998)	0	
	マリファナ	13.4(1988)	14.4		13.7(1998)	30	
3.20	この1ヶ月間にアルコール・マリファナ・コカイン・タバコを使用した若者の割合を減少させる						他分野からの追加項目
	アルコール						
	12-17歳	33.4(1988)	12.6		19.1(1998)	69	
	18-20歳	54.6(1994)	29.0		53.5(1998)	4	
	ヒスパニックの12-17歳	31.9(1988)	12.0		18.9(1998)		
	マリファナ						
	12-17歳	5.4(1988)	3.2		8.3(1998)	-132	
	18-25歳	15.3(1988)	7.8		13.8(1998)	20	
	コカイン						
	12-17歳	1.2(1988)	0.6		0.8(1998)	67	



番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
	18-25歳	4.8(1988)	2.3		2.0(1998)	112	
	ヒスニックの12-17歳	1.4(1988)	0.6		1.4(1998)		
	ヒスニックの18-25歳	2.2(1994)	1.0		2.7(1998)		
	タバコ						
	12-17歳	22.7(1988)	6.0		18.2(1998)	27	ベースラインの見直しあり
3.21	社会的に認められないことについて高校生の認識率を高める						他分野からの追加項目
	アルコールを大量に摂取すること	56.4(1989)	70		57.6(1999)	9	
	マリファナを時々使用すること	71.1(1989)	85		61.6(1999)	-68	
	コカインを経験すること	88.9(1989)	95		88.7(1999)	-3	
	1日に1箱以上の喫煙をすること	74.2(1987)	95		71.2(1999)	-14	
3.22	精神的・身体的な害があることについて高校生の認識率を高める						他分野からの追加項目
	アルコールを大量に摂取すること	44.0(1989)	70		43.1(1999)	-4	
	マリファナを常用すること	77.5(1989)	90		57.4(1999)	-161	
	コカインを経験すること	54.9(1989)	80		52.1(1999)	-11	
	1日に1箱以上の喫煙をすること	68.6(1987)	95		70.8(1999)	8	
	無煙タバコを常用すること	30.0(1987)	95		41.1(1999)	17	ベースラインの見直しあり
3.23	タバコ小売価格におけるタバコ税の割合を引き上げる						追加項目
	シガレット	31.4(1993)	50		22.1(1999)	-50	
	無煙タバコ	11.8(1993)	50		13.0(1997)	3	
3.24	ニコチン依存症の治療をを提供する保健計画の割合を増やす	11(1985)	100		N.A		追加項目
3.25	より厳格な地域レベルの屋内空気清浄条例に優先する屋内空気清浄法を有する州を減少させる	17(1995)	0		17(1999)	0	追加項目
3.26	未成年者が利用できる場所でのタバコ自動販売機の設置を禁止する法律を有する州を増加させる(ワシントンDCを含む)	12(1995)	51		21(1999)	23	追加項目

#### 4.薬物乱用(アルコール及び他の薬物)

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
4.1	アルコールに関連した交通事故による死亡を減少させる(10万対)	9.8(1987)	5.5	6.8(1993)	5.8(1999)	93	目標値8.5から変更 対象の拡大あり
a	アメリカンインディアン/アラスカ原住民男性	40.4(1987)	35.0	26.8(1993)	28.0(1994)		ベースラインの見直しあり
b	15-24歳	20.9(1987)	12.5	13.2(1993)	11.5(1999)		
4.2	肝硬変死亡率を減少させる(年齢補正後10万対)	9.2(1987)	6	7.9(1993)	7.2(1998)	22	
a	黒人男性	22.6(1987)	12		12.3(1998)		
b	アメリカンインディアン/アラスカ原住民	20.5(1987)	10		22.0(1998)		対象の拡大あり
c	ヒスパニック	14.2(1990)	10		11.7(1998)		追加項目、ベースラインの見直しあり
4.3	薬物に関連した死亡を減少させる(年齢補正後10万対)	3.8(1987)	3	4.3(1992)	5.9(1998)	-132	
a	黒人	5.7(1990)	3		8.1(1998)		追加項目
b	ヒスパニック	4.3(1990)	3		5.9(1998)		追加項目
4.4	薬物乱用に関連した病院の救急受診を減少させる(10万対)	175.8(1991)	140.6	191.4(1992)	228.2(1999)	-132	
4.5	タバコ・アルコール・マリファナを最初に使用する年齢を遅くする(12-17歳)						
	タバコ	11.6(1988)	12.6	11.7(1993)	12.4(1998)	80	
	アルコール	13.1(1988)	14.1	12.9(1993)	13.1(1998)	0	
	マリファナ	13.4(1988)	14.4	13.9(1993)	13.7(1998)	30	
4.6	この1ヶ月間にアルコール・マリファナ・コカイン・タバコを使用した若者の割合を減少させる						
	アルコール						
	12-17歳	33.4(1988)	12.6		19.1(1998)	69	
	18-20歳	54.6(1994)	29.0		53.5(1998)	4	
	ヒスパニックの12-17歳	31.9(1988)	12.0		18.9(1998)		
	マリファナ						
	12-17歳	5.4(1988)	3.2		8.3(1998)	-132	
	18-25歳	15.3(1988)	7.8		13.8(1998)	20	
	コカイン						
	12-17歳	1.2(1988)	0.6		0.8(1998)	67	
	18-25歳	4.8(1988)	2.3		2.0(1998)	112	
	ヒスパニックの12-17歳	1.4(1988)	0.6		1.4(1998)		

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
	タバコ	2.2(1994)	1.0		2.7(1998)		
							追加項目
	12-17歳	22.7(1988)	6.0		18.2(1998)	27	
4.7	最近大量にアルコールを摂取する機会のあった高校生・大学生の割合を減少させる						
	高校生	33.0(1989)	28.0		30.8(1999)	44	
	大学生	41.7(1989)	32.0		40.0(1999)	18	
4.8	14歳以上の一人当たりの年間アルコール消費量を減少させる(ガロン/1人)	2.54(1987)	2.0	2.31(1991)	2.18(1997)	67	
4.9	社会的に認められないことについて高校生の認識率を高める						
	アルコールを大量に摂取すること	56.4(1989)	70		57.6(1999)	9	
	マリファナを時々使用すること	71.1(1989)	85		61.6(1999)	-68	
	コカインを経験すること	88.9(1989)	95		88.7(1999)	-3	
	1日に1箱以上の喫煙をすること	74.2(1987)	95		71.2(1999)	-14	追加項目
4.10	精神的・身体的な害があることについて高校生の認識率を高める						
	アルコールを大量に摂取すること	44.0(1989)	70		43.1(1999)	-4	
	マリファナを常用すること	77.5(1989)	90		57.4(1999)	-132	
	コカインを経験すること	54.9(1989)	80		52.1(1999)	-11	
	1日に1箱以上の喫煙をすること	68.6(1987)	95		70.8(1999)	8	追加項目
	無煙タバコを常用すること						追加項目、ベースラインの
4.11	同化ステロイドを使用する男子高校生の割合を減少させる	30.0(1987)	95		41.1(1999)	17	見直しあり
		4.7(1989)	3.0		2.8(1998)	112	
4.12	これまで対象とされていなかった者(低所得者・女性・若者・マイリタイナーなど)にアルコールや薬物の治療プログラムへのアクセスを保証する包括的な計画を州で作成・監視する	50(1996)	50		50(1999)	100	
4.13	包括的な学校保健教育の一部として、小・中学生を対象にアルコールや薬物についての教育プログラムを提供する学校の割合を増加させる						
	何らかの指導	86(1996)	100				
	カウンセリング	63(1987)	100				
		39(1987)	100				
	臨床的な評価	23(1987)	100				

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
	最低1教科の中での指導(中学・高校)		100	90.4(1994)			
4.14	労働環境のためのアルコール・薬物の対策を有する50人以上の規模の職場の割合を増加させる						
	アルコール	88(1992)	60		92(1995)	100	
	他の薬物	89(1992)	60		96(1995)	100	
4.15	薬物の影響下で運転していたと判断される人を、運転免許停止・取消とする法律やプログラムを有する州を増加させる(ワシントンDCを含む)	29(1990)	51	38(1994)	41(1998)	55	
4.16	未成年者のアルコールへのアクセスを減らすため、1989年の水準より厳しい対策を作成、実施する州を増加	46(1996)	50				
4.17	主として若者を対象としたアルコールの販売促進活動を制限する州を増加させる	13(1996)	20				
4.18	自動車運転者の血中アルコール濃度基準を厳しくする州を増加させる						
	21歳未満ではゼロヘル(0.02%以下)						
	21歳以上では0.08%	9(1993)	50		(1998: ワシントンDCを含む)	100	基準値0.00%から変更
4.19	アルコールや薬物使用の問題を発見し、助言及び専門家への紹介を行なうプライマリケア従事者の割合を増加させる	7(1993)	50	11(1994)	16(1998)	21	基準値0.04%から変更
	全患者の81-100%にサービスを提供したプライマリケア従事者の割合						
	アルコール摂取(12年以上)について質問						
	小児科医	29(1992)	75				
	業務看護師	45(1992)	75		52(1997-98)		
	産婦人科医	34(1992)	75				
	内科医	63(1992)	75				
	家庭医	39(1992)	75				
	他の薬物使用(12年以上)について質問						
	小児科医	28(1992)	75				
	業務看護師	43(1992)	75		36(1997-98)		
	産婦人科医	32(1992)	75				
	内科医	34(1992)	75				
	家庭医	23(1992)	75				
	アルコール中毒の治療を紹介						
	小児科医	26(1992)	75				

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
	業務看護師	19(1992)	75		22(1997-98)		
	産婦人科医	24(1992)	75				
	内科医	33(1992)	75				
	家庭医	28(1992)	75				
	薬物中毒の治療を紹介						
	小児科医	32(1992)	75				
	業務看護師	19(1992)	75		25(1997-98)		
	産婦人科医	28(1992)	75				
	内科医	35(1992)	75				
	家庭医	28(1992)	75				
4.20	アルコール問題に対して、運営管理や従事者のトレーニングを確実に、責任ある対応の基準を定めるための検討委員会を設置している州を増加させる	8(1994)	30				追加項目

5.家族計画

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
5.1	思春期の女性の妊娠率を減少させる(思春期女性 1000人対)						ベースラインの見直しあり、年齢基準17歳以下より変更
	10-14歳女性	3.5(1990)			2.8(1996)		
	15-17歳女性	80.3(1990)	50		67.8(1996)	41	
	出生						
	10-14歳女性	1.4(1990)			1.0(1998)		
	15-17歳女性	37.5(1990)			30.4(1998)		
	人工流産						
	10-14歳女性	1.5(1990)			1.1(1996)		
	15-17歳女性	26.5(1990)			19.0(1996)		
	流産・死産						
	10-14歳女性	0.5(1990)			0.5(1996)		
	15-17歳女性	16.2(1990)			15.0(1996)		
a	思春期の黒人女性						
	15-19歳女性	215(1990)	120		178(1996)		
	15-17歳女性	161(1990)			128(1996)		
	出生						
	15-19歳女性	113(1990)			85(1998)		
	15-17歳女性	82(1990)			57(1998)		
	人工流産						
	15-19歳女性	80(1990)			66(1996)		
	15-17歳女性	55(1990)			44(1996)		
	流産・死産						
	15-19歳女性	22(1990)			18(1996)		
	15-17歳女性	23(1990)			18(1996)		
b	思春期のヒスパニック女性						
	15-19歳女性	156(1990)	105		157(1996)		
	出生						
	15-19歳女性	100(1990)			94(1998)		
	人工流産						
	15-19歳女性	39(1990)			37(1996)		
	流産・死産						

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
	15-19歳女性	17(1990)			17(1996)		
5.2	望まない妊娠の割合を減少させる(15-44歳女性)	56(1988)	30		49(1995)	27	
a	黒人女性(15-44歳)	78(1988)	40		72(1995)		
b	ヒスパニック女性(15-44歳)	55(1988)	30		48(1995)		追加項目
5.3	不妊の夫婦の割合を減少させる(妻が15-44歳)	7.9(1988)	6.5		7.1(1995)	57	
a	黒人の夫婦(妻が15-44歳)	12.1(1988)	9		(1995:非ヒスパニック黒人女性)		
b	ヒスパニックの夫婦(妻が15-44歳)	12.4(1988)	9		7.0(1995)		
5.4	性交渉の経験のある若者の割合を減少させる						
	15歳						
	全女性	27(1988)	15		22(1995)	42	
	女子学生			36(1991)	43(1999)		
	全男性	33(1988)	15		27(1995)	33	
	男子学生			44(1991)	34(1999)		
a	全黒人男性	69(1988)	15		58(1995)		追加項目
	非ヒスパニックの黒人男子学生			79(1991)	68(1999)		
	17歳						
	全女性	50(1988)	40		51(1995)	-10	
	女子学生			66(1991)	40(1999)		
	全男性	66(1988)	40		53(1995)	50	
	男子学生			68(1991)	44(1999)		
b	全黒人男性	90(1988)	40		79(1995)		追加項目
	非ヒスパニックの黒人男子学生			90(1991)	82(1999)		
c	15-17歳の全黒人女性	66(1988)	40		(1995:非ヒスパニック黒人女性)		追加項目
	非ヒスパニックの黒人女子学生			84(1991)	73(1999)		
5.5	性的な経験を有する17歳以下の若者のうち、過去3ヶ月間性交渉を持っていない者の割合を増加させる(15-17歳)						
	全女性	23.6(1988)	40		27(1995)	21	
	女子学生			25(1991)	25(1999)		
	全男性	33(1988)	40		37(1995)	57	
	男子学生			36(1991)	32(1999)		

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
5.6	性的に活発で未婚の若者のうち、妊娠と感染両方の防止に有効な避妊法を行なう者の割合を増加させる						年齢基準19歳以下より変更
	女性						
	初回の性交渉での避妊(15-19歳)	65(1988)	90		76(1995)	44	
	最近の性交渉での避妊(15-19歳)	78(1988)	90		71(1995)	-58	
	最近の性交渉での避妊(15-17歳、学生)			81(1991)	83(1999)		
	前回の性交渉での経口避妊薬とコンドームの使用(15-19歳)	2(1988)	90		8(1995)	7	
	男性						
	前回の性交渉での避妊(15-19歳)	78(1990)	90		79(1995)	8	
	前回の性交渉での避妊(15-17歳、学生)			83(1991)	86(1999)		
	前回の性交渉での経口避妊薬とコンドームの使用(15-17歳、学生)						
	前回の性交渉での経口避妊薬とコンドームの使用(17-19歳)	2.0(1990)	90	3.3(1991)	4.2(1999)	2	ベースラインの見直しあり
	前回の性交渉での経口避妊薬とコンドームの使用(17-19歳)	15(1988)	90		16(1995)	1	
	前回の性交渉での経口避妊薬とコンドームの使用(17歳以上、学生)			3(1991)	6(1999)		
5.7	避妊法を利用したにもかかわらず妊娠した経験を有する女性の割合を減少させ、家族計画で使われる手段の効果を高める(15-44歳)	14(1988)	7		12(1995)	29	ベースラインの見直しに伴い、目標値の変更
a	15-44歳の黒人女性	18(1988)	8		19(1995)		追加項目
b	15-44歳のヒスパニック女性	16(1988)	8		15(1995)		追加項目
5.8	13-18歳の若者のうち、両親と性について議論したことがある、及び/あるいは両親から勧められたプログラムで性についての情報を得たことがある者の割合を増加させる	66	85		(1995:18-19歳女性)	74	
	10-17歳の若者				92(1998)		
5.9	望まない妊娠をした者に、全ての選択肢について正しい情報を提供する家族計画カウンセラーの割合を増加させる	60	90				内容の変更あり
5.10	年齢に応じた妊娠前ケアを行なうプライマリケア従事者の割合を増加させる		60				
	全患者の81-100%にサービスを提供したプライマリケア従事者の割合						
	家族計画について質問						



番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達率(%)	備考
	小児科医	18(1992)	60				
	業務看護師	53(1992)	60		42(1997-98)		
	産婦人科医	48(1992)	60				
	内科医	24(1992)	60				
	家庭医	28(1992)	60				
	家族計画について相談						
	小児科医	36(1992)	60				
	業務看護師	53(1992)	60		40(1997-98)		
	産婦人科医	65(1992)	60				
	内科医	26(1992)	60				
	家庭医	36(1992)	60				
5.11	ハイリスクな個人やそのパートナーに対して、HIV感染症 や細菌性性行為感染症の1次・2次予防を提供する 医療施設の割合を増加させる						
	家族計画クリニック	40(1989)	50				
	X基金による家族計画クリニック						
	性行為感染症の診断(HIVを除く)				95(1994)		
	性行為感染症のカンセリク(HIVを除く)				98(1994)		
	性行為感染症の治療(HIVを除く)				93(1994)		
	淋病						
	患者の診断			97(1990)			
	患者の治療			82(1990)			
	パートナーへの告知			23(1990)			
	パートナーの診断			60(1990)			
	パートナーの治療			62(1990)			
	梅毒						
	患者の診断			86(1990)			
	患者の治療			48(1990)			
	パートナーへの告知			29(1990)			
	パートナーの診断			57(1990)			
	パートナーの治療			40(1990)			
	クラミジア						
	患者の診断			66(1990)			
	患者の治療			73(1990)			
	パートナーへの告知			15(1990)			

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
	パートナーの診断			29 (1990)			
	パートナーの治療			50 (1990)			
	HIV						
	患者への診断前カンゼリング			66 (1990)	82 (1994)		
	患者の診断			60 (1990)	74 (1994)		
5.12	望まない妊娠の恐れがある15-44歳の女性で、避妊を行なう者の割合を増加させる	88.2 (1982)	95	90.1 (1988)	92.5 (1995)	63	追加項目
a	15-44歳の黒人女性	78.9 (1982)	95	84.7 (1988)	89.9 (1995)		
b	15-44歳の貧困100%以下の所得の女性	79.6 (1982)	95	80.2 (1988)	92.1 (1995)		
c	15-19歳の貧困200%以下の所得の女性	67.4 (1982)	95	74.9 (1988)	84.8 (1995)		

## 6.精神衛生及び精神障害

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
6.1	自殺を減少させる(年齢補正後10万対)	11.7(1987)	10.5	11.1(1992)	10.4(1998)	108	
a	15-19歳の若者(10万対)	10.2(1987)	8.2	10.8(1992)	8.9(1998)		
b	20-34歳の男性(10万対)	25.2(1987)	21.4	24.5(1992)	22.9(1998)		
c	65歳以上の白人男性(10万対)	46.7(1987)	39.2	41.0(1992)	38.2(1998)		
d	アメリカンインディアン/アラスカ原住民の男性(年齢補正後10万対)	20.1(1987)	17.0	17.9(1992)	21.4(1998)		
6.2	14-17歳の若者の自殺企図の割合を減少させる	2.1(1990)	1.8	2.7(1993)	2.6(1999)	-167	
a	14-17歳の女性	2.5(1991)	2.0	3.8(1993)	3.1(1999)		追加項目
6.3	子供と18歳以下の若者における精神障害の有病率を減少させる	20(1998)	17				ベースラインの見直しに伴い、目標値の変更
6.4	地域社会で生活する18-54歳の成人における精神障害(薬物依存を除く)の有病率を減少させる						
	1ヶ月間での有病率	12.6(1981-85)	10.7				
	1年間での有病率	20.4(1981-85)			16.0(1990-92)		
6.5	過去1年間に、ストレスによって健康上の悪影響を受けたことのある18歳以上の者の割合を減少させる	44.2(1985)	35	39.2(1993)	33.7(1998)	114	
a	18歳以上の障害者	53.5(1985)	40	54.9(1993)	49.1(1995)		
6.6	18歳以上で、重度の慢性精神障害者のうち、地域社会の支持プログラムを利用する者の割合を増加させる	15(1986)	30		34.6(1994)	131	
6.7	18-54歳のうつ状態にある者のうち、治療を受ける者の割合を増加させる						
	6ヶ月間の治療	31(1981-85)	54				
	1年間の治療	34.7(1981-85)			34.2(1990-92)		
6.8	18歳以上の者のうち、個人的、感情的問題の対処に支援を求める者の割合を増加させる	11.1(1985)	20	14.3(1993)	22.2(1998)	125	
a	18歳以上の障害者	14.7(1985)	30	19.8(1993)	26.6(1995)		
6.9	18歳以上の者で、非常に大きなストレスを経験し、それをコントロールする手段を取っていない者の割合を減少させる						
	18歳以上の者で、非常に大きなストレスを経験し、それをコントロールする手段を取っていない者の割合を減少させる	31(1985)	5		34(1995)	-12	ベースラインの見直しあり
6.10	収監者の自殺を防止するために、精神保健、アルコール、薬物に関する公式の規定と、適切な介入を促す公衆衛生専門家を有する州を増加させる						
	自殺防止の国家基準を満たす州	2(1992)	50		1(1996)	-2	ベースラインの見直しあり

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
	自殺対策を有する刑務所の割合				79.5 (1993)		
	ACA承認を受けている刑務所の割合	1 (1990)			3 (1999)		
6.11	従業員のストレスを軽減するためのプログラムの割合を増加させる 50人以上の規模の職場の割合を増加させる 精神的、身体的疾患による感情的な苦痛を経験した者による、相互支援活動や情報へのアクセスを容易にするネットワークを設立する	26.6 (1985)	40	37.0 (1992)	26.0 (1998-99)	-4	内容が州のセンターの設置からネットワークへ変更
6.12	相互支援情報センターを有する州 連邦立の相互支援情報センター	8 (1995)	50		50	100	
6.13	患者の認知、感情、行動の機能を常に評価し、適切な対応に必要な情報を把握しているプライマリケア従事者の割合を増加させる 全患者の81-100%にサービスを提供したプライマリケア従事者の割合		60				
	認知機能について質問						
	業務看護師	35 (1992)	60		19 (1997-98)		
	産婦人科医	9 (1992)	60				
	内科医	18 (1992)	60				
	家庭医	7 (1992)	60				
	感情、行動機能について質問						
	業務看護師	40 (1992)	60		26 (1997-98)		
	産婦人科医	12 (1992)	60				
	内科医	25 (1992)	60				
	家庭医	13 (1992)	60				
	認知障害について治療/紹介						
	業務看護師	20 (1992)	60		24 (1997-98)		
	産婦人科医	20 (1992)	60				
	内科医	27 (1992)	60				
	家庭医	21 (1992)	60				
	感情、行動障害について治療/紹介						
	業務看護師	23 (1992)	60		33 (1997-98)		
	産婦人科医	23 (1992)	60				
	内科医	35 (1992)	60				
	家庭医	27 (1992)	60				